

事業実報告書

報告期間

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

一般社団法人三木市生涯活躍のまち推進機構

兵庫県三木市上の丸町 10 番 30 号

令和3年度事業実施報告

(第6期 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

令和3年3月31日をもって三木市による「生涯活躍のまち構想」の事業期間が満了しました。これに伴い、緑が丘団地をモデル地区とした三木市による地域再生事業も終了しました。このため、当法人も緑が丘事業部を令和3年6月末をもって廃止し、7月からは当法人本部（三木市役所内）において事務・事業を執行しました。

なお、市の地域再生事業終了後は、当法人がこれまで関係する地域・団体、企業などと一緒に取り組んできた「リビングラボ（共創のまちづくり）」の広がりをめざしているところです。

I 法人活動

1 社員の異動

- (1) 脱会 岩崎 国彦（三木市健康福祉部長）
- (2) 加入 なし

2 役員の異動（任期：令和2年5月30日～令和4年社員総会終了まで）

理事長	岩崎	正勝	（三木市市民生活部市民協働課）
副理事長	河崎	俊文	（生活協同組合コープこうべ）
理事	井上	輝美	（三木市区長協議会連合会）
理事	角野	幸博	（関西学院大学）
理事	右田	誠	（大和ハウス工業株式会社）
理事	安福	昇治	（三木市市民生活部長）
監事	黒井	一寿	（三木市社会福祉協議会）

※理事辞職 岩崎 国彦（令和3年3月31日付）

3 社員総会

(1) 定時社員総会

と き 令和3年5月26日

ところ 緑が丘事業部

- 議 題 ①令和2年度事業報告
②令和2年度決算・監査報告
③理事の辞任

4 理事会

(1) 第1回理事会

と き 令和3年5月26日

と ころ 緑が丘事業部

- 議 題 ①令和2年度事業報告
②令和2年度決算・監査報告
③役員（理事）の辞任
④事務取扱規則の変更
⑤定時社員総会の開催
⑥今後の法人運営（報告）

(2) 第2回理事会

と き 令和4年3月24日

と ころ 三木市役所入札控室

- 議 題 ①令和4年度事業計画（案）
②令和4年度収支予算（案）
③令和3年度事業実施状況（報告）
④令和4年度の事務執行体制（報告）
⑤役員任期の満了（報告）

5 監査

と き 令和3年5月18日

と ころ 三木市市民活動センター

- 内 容 令和2年度決算監査
①令和2年度事業
②令和2年度決算
③令和2年職務執行状況

監 査 監 事 黒井一寿

6 広報事業

緑が丘町、青山地区の全世帯5,500世帯に自治会の協力を得て配布してきた当法人の機関紙「きこうだより」は、市の地域再生事業終了に伴い5月号の発行をもって終刊しました。

この最終号において、当法人の令和3年度の取り組み及び緑が丘事業部を6月末をもって廃止することについて周知しました。

II 主要事業

令和3年度の事業の執行は、前年度と同様に新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受ける中で、リビング・ラボ手法を活用した三木市への移住・定住の促進及び多世代交流によるまちづくりを中心に取り組みました。

1 IOT を活用したクラウドソーシングの推進

クラウドソーシング事業を継承する組織として令和4年1月11日に「一般社団法人三木クラウドチーム STACK（以下「新法人」という。）」を設立しました。新法人の代表理事に推進機構で活躍したクラウドディレクターが就任し、登録ワーカー16名により事業をスタートしました。

三木市生涯活躍のまち推進機構（以下「推進機構」という。）では、新法人の運営が速やかに確立するようスタートアップ支援を行いました。

主な事業

① クラウドオフィス三木の自立に向けた経営強化

ア 月額80万円の受注目標を立て営業活動の強化

市内事業所にクラウドオフィス三木を周知するためお買い物券事業を受託しました。サンロード商店街振興組合、明盛・ナメラ商店会の連絡会議に出席するとともに、お買い物券の取扱店舗をまわり地域の店舗とのつながりをつけました。

イ 法人化の推進

チーム制クラウドソーシングは、法人（クライアント）との大型契約の受注・ワーカーのモチベーション維持・スキルアップなど多方面で成果が発揮できました。推進機構の事業に参加していたワーカーからチーム制によるクラウドソーシングの継続を希望する意見が多数あったことから、参加ワーカーを中心に新法人を設立しました。

代表理事（理事長）	池本美香子（ディレクター）
理事（副理事長）	池田博文
理事（専務理事・事務局長）	山本真理子
理事	吉元真美
理事	錦 玲子
理事	大田亜由美

監事

黒井一寿（推進機構監事）

② 活動拠点の整備

推進機構で市緑が丘町公民館に Wi-Fi 設備を整備し、令和 3 年 7 月から新法人の活動拠点（連絡会）としています。

令和3年度クラウドソーシング事業											(単位=円)	令和3年12月15日
区分	クライアント数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
1.ワーカー受託事業実績	18社	154,450	91,860	427,360	456,760	329,960	1,005,608	399,353	244,952	308,586	3,418,889	
①議事録作成	2社	9,460	19,800	0	0	0	0	0	0	0	29,260	
②データ入力	1社	6,270	0	0	0	0	3,300	0	0	0	9,570	
③ライティング(記事作成)	6社	72,720	55,560	213,960	341,260	113,960	210,160	129,353	228,452	237,086	1,602,511	
④デザイン	3社	49,500	0	55,000	0	0	232,305	0	0	0	336,805	
⑤ホームページ制作・管理	4社	16,500	16,500	16,500	16,500	16,500	16,500	16,500	16,500	71,500	203,500	
⑥コールセンター等	2社	0	0	141,900	99,000	199,500	543,343	253,500	0	0	1,237,243	
2.ディレクター委託料		55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	495,000	
合計		209,450	146,860	482,360	511,760	384,960	1,060,608	454,353	299,952	363,586	3,913,889	

2 新しいライフスタイルの創出

(1) リビングラボによるライフスタイルの共創

三木市郊外型住宅団地ライフスタイル研究会（以下「ライフスタイル研究会」という。）の参加企業等とリビングラボを行い「共創のまちづくり」に取り組みました。

主な事業

① リビングラボによる地域課題の解決

地域の商業を活性化し地域経済の循環を拡大するために、お買い物券発行事業を支援しました。この事業のコールセンター（明盛・ナメラとご近所店舗のプレミアムお買い物券発行事業）で勤務者（ワーカー）が勤務時間を自己の都合で選びディレクターがこれをモザイク的に組み合わせる新しいしごとスタイルの実証を行いました。

ア 三木市緑が丘町プレミアムお買い物券発行事業（サンロード商店街振興組合・・・ライフスタイル研究会参加団体）

緑が丘町サンロード商店街及び緑が丘町内の店舗によりプレミアム付きお買い物券を発行する事業を包括受託しました。

発行額面：2,600万円(500円券×52,000枚、プレミア率30%)

参加店舗：56店舗

実施期間：令和3年8月29日～10月28日

受託内容

- ・事業計画取りまとめ・事業執行・会計管理・運営支援(券売・換金補助)
 - ・広報・宣伝 (FMみき、駅貼りポスター、チラシ配布)
 - ・お買い物券等デザイン (プレミアムお買い物券、ポスター、チラシ、店内表示、店舗一覧パンフレット)
 - ・コールセンター (お客様・取扱店舗)
 - ・イベント (スタンプラリー運営・ガラガラ抽選会 (2回))
ポイントマップ・スタンプ・ポスターのデザイン及び印刷
- イ 明盛・ナメラとご近所店舗のプレミアムお買い物券発行事業 (明盛商店会・ナメラ商店会)

発行額面：1,690万円 (1,000円券×16,900枚、プレミア30%)

参加店舗：53店舗

実施期間：令和3年8月21日～10月20日

受託内容

- ・計画取りまとめ・執行管理、会計管理・運営支援 (券売・換金補助)
- ・広報・宣伝 (FMみき、チラシ新聞折込)
- ・店舗一覧パンフレットのデザイン
- ・コールセンター (お客様・取扱店舗)

ウ アシックス(株)とデジタルウォーキングを実施

デジタルウォーキングという動機付けで、参加者のウォーキング量の増減を調査・分析し健康増進につなげる実験。

事業名：緑が丘サンロード商店街デジタルウォーキング

事業期間：令和3年11月～令和4年2月

事業概要：緑が丘町自治会館、サンロード商店街事務所、NAOE、マルシンメガネにセンサーを設置し、参加者：42人の毎日の歩行数 (ウォーキングデータ) を集積・検証

② 郊外型住宅団地ライフスタイル研究会参加企業との共同事業 (受託)

ア コミュニティラボ実証企画

事業名：「身近な課題を」を考える おためし講座

実施日：新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和 4 年度に繰り延べ（令和 4 年 4 月 13・19 日に実施）

実施場所：コープこうべ協同学苑

対象者：60 歳～80 歳の 9 名

事業概要：シニア世代を対象としワークショップを通じて地域コミュニティとの新しいかかわり方のヒントを発見。ここでの気づきを活かし地域や社会とのより良い関係を築き自身の幸福度を上げていくという新しい講座の実証

(2) サテライト運営支援事業

サテライト「みどりん」の運営で培ったノウハウは、新たに大和ハウス工業㈱が開設するサテライト「たかはしさんち」に継承しています。

主な事業

① 地域運営型サテライトの設置・運営の支援

サテライトが建物用途上、集客する施設であることから兵庫県が新型コロナウイルスの蔓延防止重点措置の地域に指定されたことなどにより運営に大きな影響を受けました。

(3) 健康管理事業

健康ステーション及び健幸クラブは、令和 3 年 3 月末をもって終了しました。健幸クラブ会員に対して令和 3 年 4 月にお別れ健康測定会を実施し、筋質評価を行いフレイル予防を啓発しました。

健康ステーションで行ってきたのフレイル予防は、三木市の介護予防事業に引継ぎました。

- | | |
|------------------------|--------------|
| ○体組成計（BMI 評価） | 体幹・四肢の体組成評価 |
| 総骨量（骨粗しょう症） | 内臓脂肪量（生活習慣病） |
| 基礎代謝（肥満） | 体幹・四肢バランス |
| ○運動機能測定装置（SMI 評価） | |
| 下肢の筋肉（スピード・バランス・パワー）評価 | |

3 関係人口対策

推進機構の設立目的である三木市への移住・定住の促進を図るため、域学連携や三木市に関係する企業、団体、住民等との連携・協力により関係人口の増加対策を進めました。

主な事業

- ① 若者・子育て世代を対象とした地域のイメージアップ
 - ・兵庫県立大学、三木北高校と連携した子育て世代向けイベント
事業名：夏休み昆虫大捜査線
実施日：令和3年8月8日（日曜日）
実施場所：吉川里山公園（ミツカンよかわビオトープ）
- ② 地域の元気力アップ
 - ・青山地区まちづくり協議会（自治会）ホームページ制作事業
まちづくり活動を支援するため青山地区をモデルにホームページを制作しました。
引き続き令和4年度も他のまち協ホームページの制作を支援します。
 - ・商店街の活性化による地域振興（受託事業）・・・再掲
市内2商店街等でのプレミアムお買い物券発行
 - ・推進機構が開催を支援してきた「三木さんさんまつり」「緑が丘ハッピーハロウィン」は、本年も新型コロナウイルス感染拡大の影響のため中止となりました。

4 共創のまちづくり

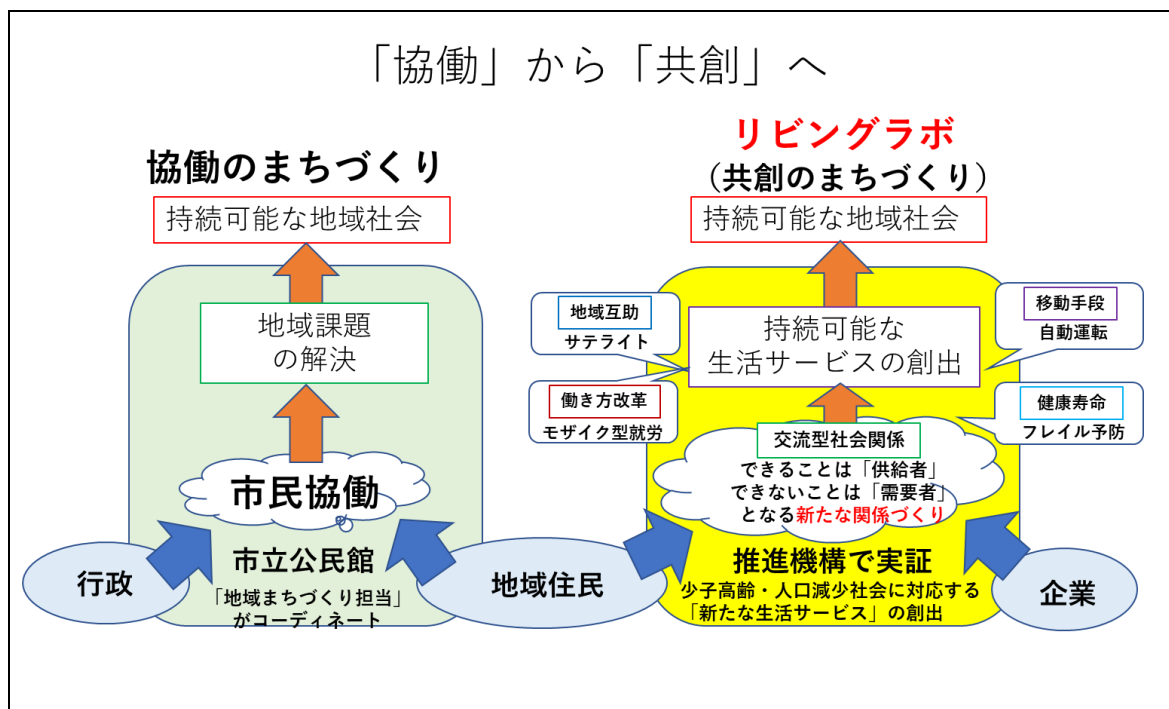
三木市の地域再生事業の中で、推進機構が地域住民や関係企業等と取り組んできたリビングラボ（共創のまちづくり）は、今後さらに進展する人口減少・少子高齢時代の地域づくりにおいて有効な手段になると考えます。

さらなる人口の減少・高齢化の進展は自治体の財源不足・マンパワーの縮小をもたらし、その結果自治体と地域が進めてきた協働のまちづくりにも影響を及ぼすことが懸念されます。

そのような中で、推進機構が取り組んできた地域と関係企業の協働による共創のまちづくりは、地域社会の持続可能性を高める新たな力となることが期待できます。

共創のまちづくりは、関係企業・団体と地域が相互にできることは供給側となり、できないことは需要側となる交流型のまちづくりで地域の生活サービスを創出していくしくみです。

推進機構では、このような交流型の地域づくりのノウハウを地域や団体に広げていきたいと考えるものです。



5 推進機構の体制

推進機構の運営を担ってきた三木市からの補助金と職員派遣は、令和3年度をもって終了となりました。（ただし、三木市との協議により職員派遣は第6期の事業の決算を行う定時社員総会開催等ため令和4年6月末まで延長）

このため、健康管理事業など市の施策として取り込めものは市へ、クラウドソーシング事業など他の関係団体で継続可能なものは関係団体に移譲（新設を含む）、あわせて事務局体制のスリム化を図りました。

また、引き続き推進機構の事業を継続していく場合、市からの人的派遣がなくなることから新たな事務局体制を確保する必要があります。このため推進機構の事業をともに進めてきた大和ハウス工業(株)に事務局の移管を

打診しています。

なお、推進機構の役員任期となる令和4年定時総会には、事務局体制を含め今後の法人運営に結論を出していきたいと考えます。

これまでの経過

- 令和3年 3月31日 推進機構嘱託職員を解雇
(事務局職員は市派遣職員のみとなる)
- 5月26日 第1回理事会 開催
定時社員総会 開催
- 6月30日 緑が丘事業部及びサテライトみどりんを閉鎖
- 7月1日 三木市役所(市民協働課)内の本部で事務事業を執行
(健康管理事業を三木市の介護予防事業に継承)
- 12月31日 クラウドディレクターとのディレクション契約を解除
- 令和4年 1月11日 一般社団三木クラウドチームSTACKを設立
(クラウドソーシング事業は新法人により実施)
- 1月31日 機構社用車(軽自動車)を社会福祉協議会に譲渡
- 3月24日 第2回理事会開催

備品の活用

緑が丘事業部・サテライト「みどりん」で使用し償却期間が終了した備品・什器は、推進機構の協力団体及び関係機関に譲渡し再活用を図っています。

(償却期間が残っているものは貸与)

①地域互助・地域福祉活動の充実

市社会福祉協議会：電動アシスト自転車、軽自動車

②健康管理 フレイル予防による健康寿命の延伸

市健康福祉部：タニタ製体組成計・運動機能測定装置(ザ・リッツ)

③地域コミュニティ・ボランティア活動の振興

サテライト「たかはしさんち」：TVセット、会議テーブル

サテライト「おおきなき」：丸椅子

市緑が丘町公民館：会議テーブル・椅子セット、プロジェクター等セット、
wifiルーター、ビデオカメラ

市青山公民館：クッションフロア、幼児遊具

ボランティアセンター：パソコン等

④地域活性化

市観光振興課：P A（音響）セット

サンロード商店街振興組合：会議テーブル・椅子セット

⑤クラウドソーシングの普及

一般社団法人三木クラウドチーム STACK：パソコン、カメラ、I Cレコー
ダー等